

人物の働きに共感！ ～小学校 歴史学習の工夫～

『小学校学習指導要領解説 社会科編』では、小学校の歴史学習について、次のように解説しています。

小学校の歴史学習では、通史的に展開し知識を網羅的に覚えさせるのではなく、
国土に残る遺跡や文化財を調べたり、年表や文章資料などの資料を活用したりして、
人物の願いや働き、文化遺産の意味などを考え、我が国の歴史に対する興味・関心
や愛情を育てるようにする。（※下線は筆者）

また、先人の業績に関する指導について、次のように解説しています。

先人の業績については、歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し人々の願い
を実現していったことを調べたり、調べたことをまとめたりしながら、人物の働き
を共感的に理解できるようにすること。（※下線は筆者）

そこで、今回は、「野口英世の業績」について、年表や地図、文章資料等を活用しながら
共感的に理解させる実践例を紹介します。

小学6年「野口英世の業績」

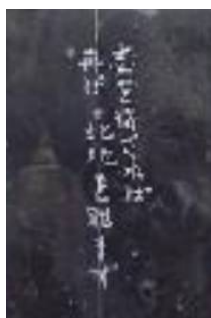
人物の業績を共感的に理解させるために大切なこととして、
次の二つがあると考えます。

- ・人物の「願い」を理解させること
- ・人物の「働き」を理解させること

上記の二つを理解させるための授業の大まかな流れについて、資料活用を中心に紹介し
ます。



1 「野口英世が生家の柱に刻んだ言葉」を提示して、野口英世の願い（志）を追及する学習課題を設定する。



【柱に刻んだ言葉】

志を得ざれば、
再び此の地を踏まず

1896年9月、当時19歳の野口英世が、上京する際に、生家の柱に刻んだ決意の言葉から、学習課題を次のように設定します。

〈学習課題〉

野口英世は、どんな志を胸に
会津を旅立ったのだろう。



2 「野口英世の年表」を提示して、医学の研究に励んだ野口英世の歩みをとらえ、野口英世が研究等で訪れた国々を「地図」で確認する。

「野口英世の年表」を提示して、医学の研究に励み続けたことを読み取らせます。

年表を自作する場合には、野口英世が研究等で訪れた国名を太字にして目立つようにしたり、授業で活用する資料（手紙等）に関する事柄を表記したりするとよいでしょう。

野口英世の年表

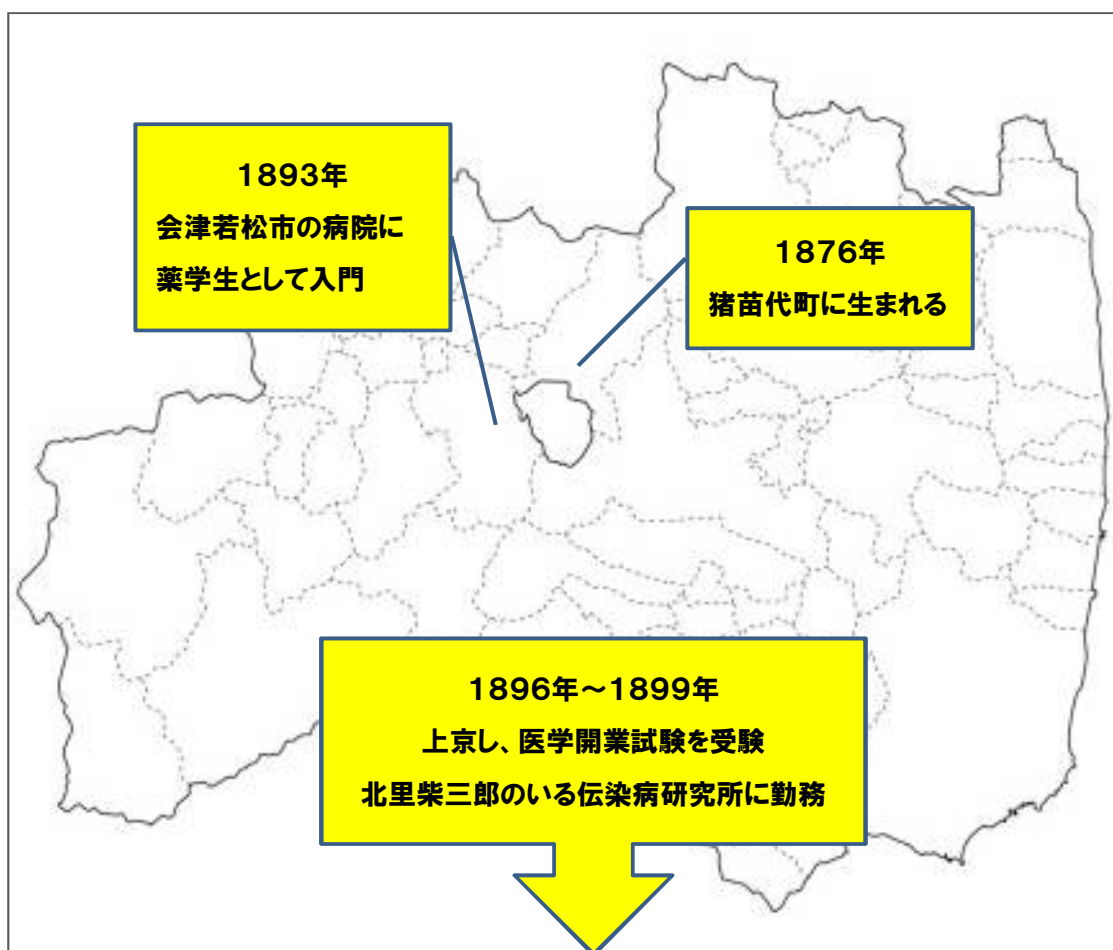
西 暦	年齢	こ と が ら
1876		11月9日 福島県猪苗代町三城湯で生まれる
1877	1	4月末、囲炉裏に落ちて大火傷を負う
1883	6	三つ和小学校に入学
1889	12	三つ和小学校卒業、猪苗代高等小学校に入学
1891	15	友人たちの寄付金により、会津会陽医院の渡部鼎に左手の手術を受ける
1893	16	猪苗代高等小学校卒業、会津若松市にある会津会陽医院に薬学生として入門
1894	17	領事裁判権をなくす 日清戦争始まる
1896	19	上京、医術開業前期試験に合格 志得らざれば再び此の地を踏まず
1897	20	医術開業後期試験に合格
1898	21	北里柴三郎のいる伝染病研究所に勤務、英世と改名
1899	22	来日したフレキシナー博士の案内役をする
1900	23	アメリカ に渡りペンシルベニア大学のフレキシナー博士を訪ねる
1901	24	アカデミー・オブ・サイエンスで毒蛇の研究を発表
1903	26	カーネギー大学研究助手となり デンマーク に留学、マドセン博士に師事
1904	27	ニューヨークのロックフェラー研究所の一等助手となる 日露戦争始まる
1907	30	ペンシルベニア大学のマイスター・オブ・サイエンスの名誉学位を受ける ロックフェラー研究所の準正員となる
1909	32	ロックフェラー研究所の副正員となる
1911	34	日本から医学博士の学位を授けられる 梅毒スピロヘータの純粋培養に成功 メリーダージェスと結婚 関税自主権が回復 【母シカからの手紙を受け取る】
1913	36	ヨーロッパ各地 に講演旅行に行く
1914	37	ロックフェラー研究所正員となる 日本から理学博士の学位を授けられる 第一次世界大戦が始まる
1915	38	日本の帝国学院から恩賜賞を受ける 一時帰国 【恩師への手紙を書く】
1918	41	エクアドル のグアヤキルに黄熱病の研究に行く 病原体をわずか9日目に発見 母シカ死す
1919	42	黄熱病研究のため メキシコ に行く
1920	43	黄熱病研究のため ペルー に行く
1921	44	ブラウン大学、エール大学からドクトラートを受ける
1923	46	黄熱病研究のため ブラジル に行く
1926	49	オロヤ熱病原体を発表
1927	50	トラホーム病原体を発表 アフリカ に行く
1928	51	ガーナ のアクラで黄熱病の研究 皮肉にも自身が黄熱病にかかり逝去

野口英世は、どうして
医学の研究に励み続け
たのかな・・・。



（「野口英世の年表」：筆者作成）

「野口英世の年表」でとらえた野口英世の歩み（研究等で訪れた国等）を「福島県地図」及び「世界地図」で確認することにより、英世が、会津の地から広く世界各国を訪れて研究に励んだことをとらえさせます。



野口英世が訪れた国々



3 「野口英世が恩師に宛てた手紙」を読み、英世の「志」について考える。

下の手紙は、アメリカで細菌学を学び、研究に励んでいた野口英世が、母に会うために一時帰国（1915年）した際に、恩師の小林栄氏に送ったものです。

この手紙を読み、「野口英世の志とは何か」について考えさせます。

野口英世が恩師に宛てた手紙

今回の帰国は一時のことで、再びアメリカにもどる覚悟です。私は日本で有名になり、安定した官職に就くことなどでは、天の使命を果たすことができません。そのようなことは世界の大局から見れば、児戯に等しいことと申し上げます。それにより世界的に有名な学者を一人出すだけで、日本人に対する侮蔑はなくなります。いや日本国や日本人種のみならず、さらに進んで世界人類のために先生の教えを活かしたいのです。もっと世界の大勢を動かす活躍に大いに腕をふるってこそ自分の志にあります。



この手紙を読むと、「日本のため、世界の人々のために研究しよう」という野口英世の強い思いが感じられるわ！

4 「ニューヨークにある野口英世の墓」の墓碑銘を読み、英世の業績が世界的に認められたことを理解する。



【墓碑銘】

野口英世

1876年 11月24日 日本の猪苗代に生まれ

1928年 5月21日 アフリカのゴールドコーストに死す

ロックフェラー医学研究所正員である野口博士は

科学への献身により人類のために生き人類のために死せり

【ニューヨークにある野口英世の墓】

野口英世の業績は、外国の人々も認めているんだな！



5 「野口英世の年表」で、野口英世が生きた時代が、日本が富国強兵政策を進め、日清・日露戦争の勝利により、欧米諸国に日本の力を認めさせた時代と同時期であることを確認する。

「野口英世の年表」に、日清・日露戦争や条約改正関係の出来事を表記しておく確認しやすくなります。

日本が大きな戦争をしていた頃に
野口英世は、国内や世界の各地で
研究に励んでいたんだな。



6 日清・日露戦争の勝利により、欧米諸国に日本の力を認めさせた日本の動きと、医学の研究で広く世界に認められた野口英世の働きとを対比し、一人の日本人として、医学の発展に尽くし、日本の国際的な地位の向上に寄与した野口英世の「志」(学習課題)に対する自分の考えをまとめる。

上記の下線部の「対比」について、おさえない事柄は、次のとおりです。

日本は、日清・日露戦争で多くの戦費と犠牲をはらって勝利を遂げ、その後、国力が充実し、国際的地位が向上した。
同時期に、野口英世は、世界各地で研究に励み、一人の日本人として多くの命を救うという志をもち、日本の国際的地位の向上に貢献した。

一人の日本人として、世界の人々のために研究に励み、
日本の国際的地位の向上に貢献した野口英世は、とても
格好いいな！ 福島県、そして会津の誇りです！



「野口英世の業績」の学習では、年表や地図等の資料を活用して、時代背景を踏まえながら、野口英世が世界的に活躍したことを空間的な広がりでもとらえさせることが大切です。

特に、「我が国が目指した富国強兵による国づくり」と、「野口英世の願いや働き」とを対比しながら追究させることにより、野口英世の業績のすばらしさや偉大さがより明確となり、人物の働きを共感的に理解させることができます。